

(文例：看護職)

ようこそ、協働の職場へ！

看護職 氏名 ○○ ○○

—老健施設での役割、やりがい

病院での急性期疾患などの治療終了後、すぐに在宅復帰が困難な場合には老健施設で生活リハビリを行ないます。また配偶者の死亡や認知症の悪化などにより独居生活が困難となった場合にも、老健施設を利用しながら今後の方向性を検討していく場合があります。治療が優先される病院と違って、生活主体の老健施設での看護職の主な役割は、利用者の体調管理と異常の早期発見です。

入浴介助やおむつ交換、あるいはレクリエーションなど介護職と同じ業務でも、看護職は看護の視点に立ってアセスメントをする必要があります。また、必要な観察点などを介護職と一緒に頑張って勉強しケアプラン作成など、他の職種とのコミュニケーションをこまめにとっていくことも大切です。病院でも施設でも、「忙しくてピリピリしている看護師さんに声をかける時は、空気を読むといいですか、結構気を使っています」とよく耳にします。そんな状況では、良いケアはできません。経験年数も年度途中からの入職も関係ありません。とにかく「報告」「連絡」「相談」ができコミュニケーションがとれ、日常業務の中で再発見し専門性を生かした“協働の職場”です。

—新入職員へのエール、メッセージ

ライフスタイルの変化で「急性期病院ではちょっと」と思われた方は老健施設を経験してみることも、長い看護師生活の中ではプラスになる事も多いです。

「温かいケア」「支えるケア」「信頼のケア」で安心して日々を過ごすことのできるケアの実践を目指して一緒に頑張りましょう。